

NKGケフィアは、口腔内バリア機能を高めることが期待できます。分泌型IgAに及ぼす研究報告

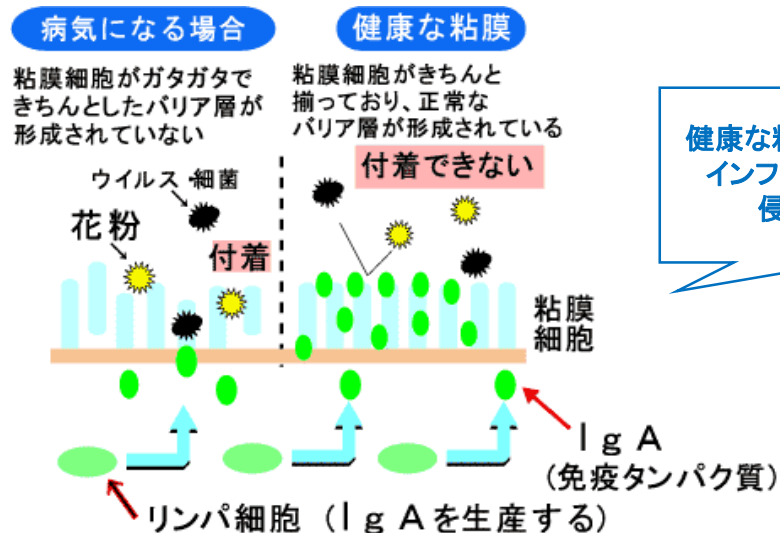
◆ IgAとは

IgA・・・免疫グロブリン(抗体)の一種で、漿粘性分泌液中(唾液・鼻汁・乳汁など)に存在する主要なグロブリン。

分泌型IgA(唾液S-IgA)

- ・・・唾液中に分泌されるIgAの一種で、粘膜面において病原微生物の接着抑制や抗原の吸収抑制作用など、極めて重要な生体防衛機能を担っている。
- S-IgAが高い状態を保つことができれば、粘膜面からのウイルスの吸収を抑制することができると考えられている。

◆ IgAは粘膜からの侵入を予防



健康な粘膜では、粘膜面からのインフルエンザ等ウイルスの侵入を予防している

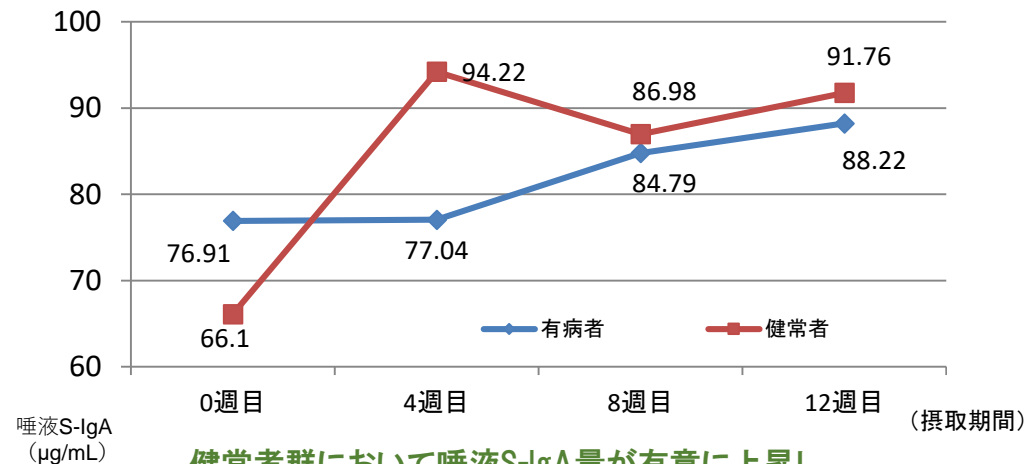
◆ 試験内容

【試験方法】

スギ花粉症有病者10名、健常者9名の計19名にケフィア末を12週間(84日間)連続摂取させ、摂取前後の分泌型IgA(S-IgA)量を比較した。

【試験項目】

- ・唾液検査(唾液S-IgA量)
- ・一般臨床試験(血液検査・尿検査:有害事象がないかの確認のため)
- ・セルフチェック(生活状況・体調チェック)



健常者群において唾液S-IgA量が有意に上昇し、有病者群においても唾液S-IgA量の上昇傾向がみられた。

結果) ケフィアには、唾液S-IgAの産生を増加させ口腔内粘膜のバリア機能を高め、**ウイルスの侵入を防ぐことが期待できます。**